平成 28 年度

国臨協関信支部埼玉地区会
会報誌
第４号

埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

平成 29 年７月発行

会長挨拶

国臨協関信支部
埼玉地区会
会長　山田　晶

初夏の候、埼玉地区会会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び 申し上げます。

改めまして、昨年の総会で埼玉地区会会長に選任されました東埼玉病院の山田でございます。もとより微力ではございますが、活発な地区会運営が出来るよう精一杯務めさせて頂きます。昨年 10 月に東埼玉病院にて、第１回理事会を開催し今後の活動方針、役割分担を決定いたしました。現在、3 回の理事会を開催しております。6 月 3 日には、手ぶらで楽しめるバーベキューパーティーを開催し、地区会員の交流を育みました。多数の会員方々に参加して頂き、誠にありがとうございました。

さて、4 月の人事異動から早くも 3 か月が経ちました。新しく埼玉地区会にご入会頂きました方々は、少しは職場に慣れて頂けましたでしょうか。新しい職場は、新人技師やベテラン技師の方も、多少の不安やプレッシャーによるストレスが掛かるものです。自分一人で抱え込んだり、一人で解決しようと頑張り過ぎないことが大切です。周りの方も声掛けなどのサポートをして、より良い職場環境、魅力ある職場環境をみんなで整えていくことが大切です。職場環境改善は国臨協全体の課題ともなっております。人材育成・子育て支援・職場復帰の教育制度・職場全体の意識改革・風土への改善など様々な問題があります。さらに、2025 年問題では、3 人に 1 人が 65 歳以上、5 人に 1 人が 75 歳以上というかつてない高齢社会を迎えます。高齢化が進み、それに伴い若い人材の確保が困難になると想像します。魅力ある職場環境を作らなければ、離職防止や人材確保がより一層難しくなります。それには、先ずは自分の職場を見渡し現状の問題点の有無を見つけることが大事です。声掛け 1 つにしても技師長を筆頭にスタッフ全員が同じ方向性を持つことが大切です。埼玉地区会も 4 施設でそれぞれ情報を共有し、また他の地区会や関信支部とも連携を密にして、より良い職場環境の構築をしていきたいと思います。

今後も役員一同力を合わせ少しでも皆様 に喜んでいただける会にしようと努力しまいります。至らない点も多々あるかと思いますが、皆様のご協力を得ながら会務を全うしていきます。何卒よろしくお願いいたします。

暑い日が増えてきている今日この頃、埼玉地区会員の皆様におかれまして、体調など崩されませんようご自愛ください。

New Face !!

NHO 東埼玉病院
渡辺　靖

皆様、初めまして。西新潟中央病院より東埼玉病院に異動して参りました渡辺です。私をご存知でない方が大多数だと思うので、先ずは自己紹介から。生まれも育ちも新潟市で、西新潟病院（現、西新潟中央病院）を皮切りに、成育医療センター（現、成育医療研究センター）を経て、再び西新潟中央病院へ、そしてこの度、東埼玉病院にお世話になることとなりました。専門部門は、微生物検査、感染管理で、関信支部や機構本部で関連する委員会の委員も務めております。また、3 月までは新潟県臨床検査技師会で微生物部門長（班長）を務めておりました。しかしながら、技師長という立場になった以上、特定の部門だけに捕らわれることなく、検査業務のすべてにおいて目配せをして行かなければと思っています。東埼玉病院の本年度の病院目標は「原点に立ち返ってプロフェッショナルな仕事をしよう」です。“プロフェッショナル”という言葉を聞くと「自分は本当にプロか？」と時々、自問自答しています。答えはいつも「まだまだだな～」です。あるレベルまで上がったとしても、そこからまた違った景色が見えて来て、自分の未熟さに気が付きます。そこで「また勉強しなきゃ」となる訳ですが、若い頃の様に「よし、頑張ろう！」という“やる気スイッチ”が入り難くなってきている自分に気が付きます。本当のプロは、それでもスイッチをオンに出来る術があるのでしょうね。皆さんも時々、自問自答してみて下さい。と、ここまでは表の専門分野で、裏の専門部門（ぶっちゃけ趣味ですが）は、バンド活動（ギター）です。ジャンルとしては、ロック、ブルース、ポップスあたりが中心です。ありがたいことにプロの方々にも声を掛けて頂き、一緒に演奏をする機会も増えてきました。数年ぶりの関東暮らしになったので、頻繁に東京周辺で演奏をすることが出来ると思ってはいたものの、今のところ日々の暮らしに振り回されて、それどころではない状態です。この先いつまで埼玉暮らしが続くのかは分かりませんが、（山田副技師長と共に？）東埼玉病院に骨をうずめる気持ちで仕事をするつもりでおりますので、皆様よろしくお願い致します。

NHO 東埼玉病院
飯島　健太

皆々様、初めまして平成 29 年度 4 月 1 日付で、東埼玉病院の主任に着任いたしました飯島健太と申します。前施設は、小児科と婦人科が主でしたが、これからは東埼玉病院の慢性期医療と向き合う事になり、勉強の毎日です。現在は生化学業務、業務改善や働きやすい職場づくりに渡辺技師長、山田副技師長に温かく見守られながら奮闘しております。東埼玉病院には、引継ぎを兼ねて 3 月に初めて訪問いたしました。その時は、森の中をバスが進んでいくので不安を感じたのを覚えております。しかし、4 月になり満開の桜、藤棚、野鳥のさえずりなどを聞いていると、自然に囲まれた東埼玉病院の素晴らしさに感銘を受けているこの頃です。また、暑い夏にはカブトムシも多くみられるそうなので胸を膨らませております。現在、東埼玉病院の検査科は 7 人という少数ではありますが、一致団結しお互いにフォローしあいながら和気藹々としており、私も早くから溶け込むことができました。少数だからこそ、柔軟な考え方や、取捨選択など、より合理的な考え方が求められるため、学ぶことはたくさんあります。まだまだ若輩者ではありますが皆様と一緒に埼玉地区会を盛り上げていければと思いますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

NHO 埼玉病院
熊野　寿世

4 月 3 日付で国際医療センターより異動しました熊野寿世と申します。
大田区の大森から通勤していますが埼玉県の施設は初めての勤務となります。
大森は川崎に近く、ほぼ東京を縦断するような通勤経路となり、埼玉病院まで 1 時間半ほどかかります。
埼玉病院で 5 施設目の異動となりますが、今回主任として異動させていただき、また今回輸血の担当となり、前施設で輸血は日当直のみ携わっていましたので、施設が変わったことに加え、日勤業務についても行う事になり、最初の 1 ヶ月近くは緊張の連続でした。しかし、埼玉病院のアットホームな雰囲気と皆さんが優しく接してくださるお陰で、現在は異動当初の緊張感は多少軽減したような気もしますが、知識や技量などはまだまだだと感じています。

また、6 月 3 日に開催された埼玉地区会の交流会に参加させていただきました。その際、これまでに勤務してきた施設でご一緒した方々との再会もあり、大変楽しい時間を過ごす事ができました。今回通勤で使う事になった東武東上線は、これまであまり馴染みがなく、交流会の際もらりぽーと富士見がいったいどこの駅にあるのか、どのあたりにあるのか、などがわかりませんでした。私は、正職員で採用になったのが茨城県で、当時は今より更に土地勘もなく困り果てましたが、茨城県を去る時には、県内にとても詳しくなっていましたので、今後は行動範囲を広げて、埼玉県も詳しくなれたらと思っています。

年齢的に新人とは言えませんが、担当業務に対しても、主任業務に対してもたくさん学び、身に付けていきたいと思っていますので、どうぞよそしくお願いいたします。

NHO 西埼玉中央病院

水越　寛

埼玉地区の皆様初めまして、4 月付けで西埼玉中央病院の主任臨床検査技師として採用となりました水越寛（みずこし　ひろし）と申します。

私は国立がんセンター中央病院に非常勤職員で 8 ヶ月、NHO 水戸医療センターに常勤職員として 8 年 4 ヶ月勤めていました。前の施設が長かったのもあり転勤することに不安を感じていましたが、当院スタッフにお心遣いを頂き徐々に慣れてきた次第でございます。

また私自身の生活環境も大きく変化し、前施設では宿舎に住んでいたため通勤時間が 1～2 分でしたが、西埼玉中央病院にきてからは電車 40 分・徒歩 20 分の通勤となりました。田舎では車生活でしたので、都内にお住まいの方や普段運動されている方々から見れば大した時間には見えないと思いますが、始めのうちは病院に行くだけでも疲労感を感じる事もありました。

検査技師としてもまだまだ未熟ですが、努力を惜しまず頑張りますので皆様御指導御鞭撻の程宜しくお願い致します。

NHO 埼玉病院

石井　証吾

平成 29 年４月１日付で国立病院機構埼玉病院に採用となりました、石井証吾（いしい　しょうご）といいます。出身は埼玉県で、昨年４月から今年３月まで非常勤職員として国立国際医療研究センター病院で細菌検査（その中でも抗酸菌）の業務を行っていました。

この度、埼玉病院に正職員として採用となり、東京から自身の出身地へと戻ってまいりました。以前は細菌検査でしたが、ここ埼玉病院では病理検査を担当させていただいております。海無し県の埼玉で生まれ育った私ですが、趣味は海釣りで、主に神奈川の三浦半島方面を中心に活動しています。ただ海釣りと云っても乗り物酔いが酷く、船に乗ることが出来ないので釣りは陸地から専門になります。他にはバイクも好きで、学生時代はちょくちょくツーリングに出かけていました、しかし今住んでいる賃貸は中型バイクが置けないため、不本意ながらバイクは実家の倉庫で眠らせている状態です。いつかはバイクの置ける賃貸に引っ越してまたバイクを乗り回したいと思っています。

最後になりますが、私はまだまだ医療人として、また検査技師として未熟です。ここ埼玉病院で働く方々はみな人柄が良く、この恵まれた職場で多くを学ばせていただき、一日でも早く一人前の検査技師になるため頑張っていきたいと考ええております。これから先ご迷惑をお掛けしてしまうことが多々あるとは思いますが、宜しくご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

NHO 西埼玉中央病院
望月　麻由

平成 29 年 4 月 1 日付けで独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院に採用となりました望月麻由と申します。3 月 31 日まで国立研究開発法人国立成育医療研究センターで非常勤として働かせて頂きました。

内示が出た時は、自分が埼玉県の病院に配属になるとは全く思っていなかったので驚きを隠せませんでした。前施設が東京都世田谷区と比較的都会な場所にありましたので、周りが畑や林で高い建物がほとんどない当施設の姿に、山梨にある祖母の家が思い出されます。私は鳥が好きなので当施設の池でカルガモの赤ちゃんを見たときはすぐさま写真を撮りました。ツバメや都会ではあまり出会えない鳥も沢山見られ、田舎？も良いものだな…と、今ではけっこうお気に入りです。埼玉県は今まで来たことがなかったので、この機会に少しずつ開拓していきたいと思っています。

現在、業務は一般検査を担当しています。分からないことが多く四苦八苦の毎日ですが、検査科の皆さんに優しく教えて頂きなんとか無事に過ごしております。しかし、主任や先輩の技師さん達に手伝ってもらって仕事をこなしているのが現状なので、1 日も早く一人前になれるように頑張りたいと思います。他にも皆さんと楽しく食事をしたりと、仕事以外でも良くして頂き西埼玉中央病院で働けて良かったと思っています。

デブウイルスという謎の病原体に感染してしまいましたが、脂肪ではなく知識を多く身につけ、一人前の臨床検査技師になれるよう努力していきたいと思っておりますので、みなさん宜しくお願い致します。

「平成 28 年度埼玉地区会懇親会に参加して」

NHO　西埼玉中央病院
瀧澤　光彦

平成 29 年 6 月 3 日（土)、国臨協関信支部埼玉地区会主催懇親会がららぽーと富士見ＢＢＱガーデンにて会員 22 名参加のもと行われました。晴天にも恵まれ、埼玉病院藤澤技師長の御発声により BBQ 懇親会がスタートしました。開始早々から煙に負けずに必死でお肉を焼いてくださった諸先輩方には頭が下がる思いでした。焼き方などについても、お肉は十分に火を通すこと！野菜は焼きすぎないこと！ビールは冷たいうちに飲むこと！などいろいろ勉強させていただきました。美味しいお肉と新鮮な野菜を思う存分堪能し、日頃の疲れから解放されてリフレッシュできたのではないかと思います。

会が落ち着いてきたところで、今年の 4 月より埼玉地区会に新しく来ていただいた東埼玉病院渡辺技師長をはじめ、埼玉病院熊野主任・西埼玉中央病院水越主任から自己紹介をいただきました。最後は西埼玉中央病院佐藤技師長による一本締めで楽しいＢＢＱもお開きになりました。懇親会終了後も二次会・三次会と有志で志木駅居酒屋にて、盛大に盛り上がりました。

交流会を通して、普段なかなか話す機会のない他施設の諸先輩方や同期・後輩技師とも交流を深めることができ、改めて埼玉地区会の絆を実感することが出来ました。この繋がりを今後の業務等にも役立てていきたいと思います。

最後になりますがご多忙の中、参加していただいた方ありがとうございました。

初めての
共同作業
♡

NHO 東埼玉病院霊安解剖棟竣工

NHO 東埼玉病院　副臨床検査技師長
山田　晶

かねてより工事中の霊安解剖棟がこのほど竣工の運びとなりました。1970 年に建てられ、既に築 47 年経っている解剖室。（写真 1）サザエさんのエンディングに出てくる様な煙突がトレードマーク。（お風呂は 20 年位使用されていない）そんな解剖室が、心霊解剖棟として新たに建設されました。（写真 2）

旧解剖室（写真1）

霊安解剖棟(写真2)

病理解剖は死体解剖保存法という法律に基づいて解剖室で行われています。しかし、解剖室に安全基準の法律はなく各施設にそれらは委ねられていいます。今回、作業従事者の安全性（特に感染症対策）を考えた解剖棟が建設されたので、旧解剖室との比較や感染対策を紹介いたします。

解剖時はご遺体や体液を扱うため特に感染力や危険度の高い①結核菌、②肝炎ウイルス、③ヒト免疫不全ウイルス（HIV）、④プリオンの 4 種について対策を考慮しています。①結核菌はメス入れた時点で暴露のリスクがあるため解剖室は陰圧式空調システムとしております。また、上から下への層流（プッシュプル法）により、作業者の感染の危険性を低減している構造となっています。旧解剖室は窓だけの劣悪な環境でした。解剖台は見たこともない大理石の 1 枚石で作られています。（写真 3）当然ながら現在の解剖台のように解剖台サイドから水は出ません。（写真 4）

1枚石の解剖台（写真3）

バイオハザード対策解剖台（写真4）

②肝炎ウイルスはワクチンのない B 型肝炎以 外の病原体については，予防が最大の防御であると考えています。万が一切創事故を生じた場合の対処法（局所の処理、医療安全への報告、予防内服）を周知徹底することが重要であると思います。③HIV については、遺体を一晩冷蔵保存し、翌朝から解剖すると生存ウイルス量をかなり減少させることができます。臨床との密の連絡が重要です。④プリオンについては解剖を乾式で行い、換気装置付フルフェイスマスクを着用し器具は基本ディスポの使い捨てを使用する予定です。(写真 5.6)

写真 5

写真 6

すべての解剖終了時には微酸性次亜塩素水‘Well CLEAN-TE’（OSG コーポレーション）を噴霧し殺菌操作を行うことで室内の感染源を最小限に抑える構造となっています。

また、ホルムアルデヒドの作業環境対策としては、プッシュプル換気装置付の自動ホルマリン供給装置を設置しております。これにより臓器固定のホルマリン供給や固定後に廃棄する時のホルムアルデヒド暴露を低減させています。解剖時はすべての検体が感染性を有するとみなすことが最も重要です。感染源に則した処理を行える環境の構築が大切と考えます。

最後にこの心霊解剖棟の建設にご尽力していただいた前東埼玉病院院長　故・川井 充先生にご冥福と感謝の意を表したいと思います。

お知らせ

＊関信支部学会 地区会ポスター作成

＊定期総会･研修会：９月９日（土）予定

担当：東埼玉病院

埼玉地区会事務局：NHO 埼玉病院臨床検査科

＊＊＊＊＊＊＊＊編集後記＊＊＊＊＊＊＊＊

じめじめした日が続きますが皆様いかがお過ごしですか。
関東の梅雨明けは 7/22 頃になりそうです。この時期は、日中は暑くても雨が降ると気温が下がり寒くなります。気温差と湿度が高いので体がだるい･疲れるといった症状がでてきます。疲れを感じたらビタミン B 群をとりましょう。特にビタミン B1 は「疲労回復ビタミン」とも呼ばれ、疲労･ストレスに効果があります。含有量が多い豚ヒレ肉･豚もも肉、ウナギ、インスタントラーメンなどの食品をとって健康管理に努めましょう！